

2015 Annual Report

一般社団法人 Colabo | 2015年 活動報告書

「すべての少女に衣食住と関係性を。
困っている少女が暴力や搾取に
行きつかなくてよい社会に」を合言葉に、
中高生世代を中心とする
女子を支える活動を行っています。

Colabo

「すべての少女に衣食住と関係性を。
困っている少女が暴力や搾取に
行きつかなくてよい社会に」を合言葉に、
中高生世代を中心とする
女子を支える活動を行っています。

私たちの思い

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。家族との仲は悪く、教員ともうまくいかず、街を彷徨っていた私は当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。街には同じような想いを抱えて集まっている人がたくさんいました。ファーストフードや漫画喫茶、居酒屋、カラオケの他、ビルの屋上に段ボールを敷いて一夜を明かしたこともありました。当時の私や友人たちは、家庭にも学校にも居場所をなくした“難民”でした。

そうした少年少女が、見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法の仕事、未成年の少女たちの売春斡旋や、暴力、予期せぬ妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。友達を助けられないこともありました。

高校を中退し、このままでは生活できない、どうすればよいのだろうと悩んでいましたが、頼ったり、相談したりできる大人はいませんでした。そんな私に声をかけてくれるのは、買春者か、危険な仕事に斡旋しようとする人だけでした。それ以外に、自分に関心を寄せてくれる大人はいないと感じていました。

それから約10年が経ち、26歳になった私も「大人」と言われるようになりました。今でも、そうした少年少女に路上やネット上で声をかけるのは、多くが手を差し伸べる大人ではないのが現状です。

「大人はわかってくれない」「大人は信用できない」という声には、「向き合ってくれる人がいない」「信じてくれる人がいない」という想いが込められているのではないのでしょうか。必要なのは、特別な支援ではなく、「当たり前」の日常です。

私たちは、出会う少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと思っています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行きつかなくてよい社会を目指して活動を続けます。

2016年5月
一般社団法人Colabo
代表 仁藤夢乃



2015年度 活動概要

■相談事業

- ・相談者数 ————— 121名
- ・面談 ————— 141回
- ・同行支援 ————— 106回
- ・他機関連携 ————— 57件

■食事・物品提供

- ・提供回数 ————— 195回

■一時シェルター

- ・利用者 ————— 18名、158回
- ・宿泊者 ————— 11名、56泊

■サポートグループ Tsubomiの活動

- ・参加者 ————— 21名
- ・活動日数 ————— 65日

■啓発事業

- ・講演会 ————— 76回、8,849名参加
- ・街歩き研修 ————— 35回、296名参加

目次

■私たちの想い	1	■啓発事業	9
■2015年度活動概要	2	夜の街歩きスタディーツアー	
■夜間巡回・相談事業	3	■メディア掲載、受賞歴	11
相談を受けた少女への対応		■会計報告	12
■食事・物品提供	5	■会員・寄付・物品応援	13
■一時シェルター	6	■ご支援のお願い	14
■サポートグループ Tsubomi	7		

夜間巡回・相談事業

深夜の街を巡回し、帰らずにいる少女に声をかけ、繋がっています。
また、HPやSNSなどを通して全国から寄せられる相談にのっています。

夜間巡回

相談者数

18.121.

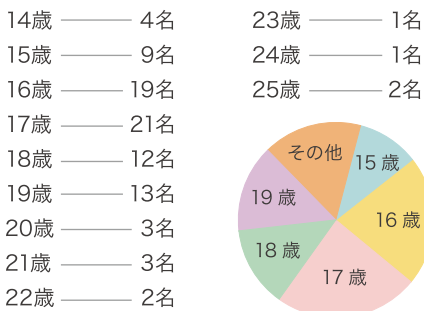
回 名



相談者の属性と現状

- ・本人からの相談 —— 90名(女子84名、男子6名) うち、新規相談者62名
- ・本人以外からの相談 —— 31名(友人13名、母親4名、医師1名、教員3名、スクールソーシャルワーカー1名、その他支援者12名)

■年齢(本人からの相談)



■出会ったきっかけ

- ・SNSを通して —— 42名
- ・友人の紹介 —— 17名
- ・仁藤が高校の授業にきたことや講演 —— 17名
- ・支援者・知人の紹介 —— 12名
- ・街やSNSでスタッフから声をかけられて —— 11名
- ・テレビ、新聞をみて —— 6名
- ・HPをみて —— 6名
- ・仁藤の著書を読んで —— 5名
- ・企画展サイトをみて —— 4名

相談は全国から寄せられ、東京、神奈川、千葉、埼玉を中心に、北海道、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、長野、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、和歌山、福岡、熊本、宮崎、長崎、沖縄などで少女たちと出会い、関わっています。

■相談内容

家庭のこと

94
件

- ・虐待 —— 48件
- ・家族関係 —— 23件
- ・生活困窮 —— 11件
- ・居所なし —— 9件
- ・親の自死 —— 3件

学校のこと

67
件

- ・友人関係 —— 20件
- ・進路 —— 14件
- ・いじめ —— 11件
- ・高校中退に関する相談 —— 13件
- ・学校に行かせてもらえない —— 5件
- ・教員・学校のこと —— 4件

性のこと

105
件

- ・売春 —— 26件
- ・性被害 —— 25件
- ・JKビジネス —— 17件
- ・恋人からのDV —— 12件
- ・妊娠 —— 7件
- ・セクシャルティ —— 5件
- ・その他、性についての悩み —— 13件

その他

- ・自傷行為 —— 28名
- ・病院に行きたいが行けない —— 10名
- ・公的機関の対応について —— 9名
- ・知的障害 —— 6名
- ・精神障害 —— 8名
- ・発達障害 —— 4名

家族からの暴力やネグレクトなど、虐待に関する相談が48件。中でも、児童福祉につながった経験を持ちながら、適切に対応されなかったことから不信感を抱く少女たちとの出会いが続いています。相談者に「児童相談所と関わったことはある？」と質問すると、「あんたもそっちの人間か」と厳しい目つきでバリアを張るような様子を見せたり、夜の街で声をかけたとき「保護じゃないよね？」と怯えた表情で言われたりしたこともあります。

安心して過ごせる場所を持たないまま、な

んとか生き抜こうとする中で、危険に巻き込まれた少女たちと毎年多数出会っています。性被害や性的搾取の被害に遭った少女たちは、安全を手に入れてからもトラウマや精神的な不安を抱えて生きています。そのため、一時的、緊急的な支援だけではなく、中長期的なかわりや暮らしづくりを支える活動を大切にしています。

生活が困窮し、家庭が福祉に繋がっていないながらも、虐待があり、うわばきや文具を親に買ってもらえない、給食費や修学旅行費が払え

ないなどの理由から売春していた中学生にも複数出会いました。親の目や暴力を気にして「親の都合で学校に行かせてもらえない」、親に怒られるから「病院に行かせてもらえない」という相談や、「ガスや電気が止まっている」「保険証が切れて病院に行けない」「親が家に帰ってこなくなった」「認知症の祖母と二人暮らしをしているが、祖母を殺してしまいそう」などの相談もありました。必要に応じて、行政や児童相談所への同行や、学校など他機関との連携を行っています。

少女たちの伴走者に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。困っている人の一番の困りごとは、「助けて」と言えないこと。「あなたは どうしたい?」と問われても、それがわからないことです。混乱した生活の中、落ち着いて考えられる環境や、一緒にものごとを整理してくれる人との信頼できる関係性や体験があつて初めて、自分の状況に向き合うことができます。私たちは、食卓を囲む時間や体験を共有し、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、困った時に頼れる関係を築きたいと考えています。半年以上密に関わつて初めて、性的虐待の被害にあつていることを話してくれる人もいます。ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できることではありません。だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、共に歩める伴走者でありたいと活動しています。



相談を受けた少女への対応

■ 面談：141回

- ・本人との面談 ————— 125回
- ・その他関係者との面談 — 16回



■ 同行支援：106回

同行先

- ・各種手続き・買い物 ——— 16回
(住所変更、携帯電話や家具家電の購入、郵便局など)
- ・不動産 ————— 13回
- ・市役所 ————— 10回
- ・病院 ————— 10回
- ・児童相談所 ————— 9回
- ・進学先・就労先探し ——— 7回
(学校・職場見学、ハローワーク)
- ・面談 ————— 12回
(ケースワーカー、教員、児童相談所、大家、シェルター入居面談など)
- ・警察 ————— 5回
- ・法律相談 ————— 4回
- ・学習会・研修 ————— 4回
- ・学校 ————— 4回
- ・里親家庭 ————— 3回
- ・卒業式 ————— 3回
- ・引っ越し ————— 2回
- ・家庭 ————— 2回
- ・成人式 ————— 1回
- ・児童養護施設 ————— 1回

■ 他機関連携：57件

- ・弁護士 ————— 18件
- ・児童相談所 ————— 16件
- ・行政 ————— 6件
- ・警察 ————— 5件
- ・学習支援 ————— 4件
- ・病院 ————— 3件
- ・学校 ————— 2件
- ・民生委員 ————— 2件
- ・着付け ————— 1件

■ 同行支援から見てきたこと

必要に応じて家庭や警察、病院、児童相談所等への同行支援を行っていますが、少女自身が詳細に被害や状況を訴えられなければ、支援を受けることが難しい現実があります。しかし、子どもたち自身が「助けて」と訴えることは容易ではなく、勇気を出して相談しても対応されず、大人を信用できなくなっている子どもがたくさんいます。

相談者の状況によって、アドバイスや他機関に繋ぐなど、一時的な対応で問題が解決するケースもあれば、中長期的な支援が必要な場合もあります。頼れる家族がいなかったり、親族から身を隠して生活しなければならない状況にあつたりする場合は、日常的な支援が大切になってきます。生活に関する相談やトラブル対応、病院への同行、大家への挨拶、洗濯や掃除、食品の保存方法、服薬管理や貯金、進学や就労に関するアドバイスなど、生活全般を見守っています。



食事・物品提供

少女たちと食卓を囲む時間を大切にしています。十分な食事を取ることができていない少女や、誰かと食卓を囲む機会がなく、孤食を続けている少女と料理をし、出会いや関わりの場をつくっています。

食事提供回数

衣類・物品の提供

195.128.

応援者の方からいただいた衣類、文具、生理用品、化粧品、入浴剤、食品などを少女たちに贈っています。

「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります。

困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。非行や家出をくりかえしていたり、困難を抱えたりしている少年少女の多くは、「自分の問題なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と強い気持ちを持っています。その結果、ひとりではどうにもならない事態にまで発展しているケースもあります。

私たちは、そんな少女にまずは「一緒にご飯を食べよう」「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。共に料理をし、食卓を囲み、笑いあい、互いの話をし、関係性をつくっています。

鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない、誰かが料理している所を見たことがないという少女もいます。ある時、父親と2人暮らしをする15歳の少女とお好み焼きを食べた時「こんなちゃんとした手料理を食べたのは7年ぶり

と話してくれました。生活保護を受けながら母親と暮らす少女の家には炊飯器もお米もないことがわかり、物資の支援に繋いだこともあります。食事後にシンクに並んで洗い物をしていると「お母さんとこういうことが出来る家にうまれたかったな」と、つぶやく女の子もいます。

食事の場は「相談する」ことへのハードルを下げることもつながります。困った時に「相談したいです」と申し出ることは、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、女の子たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。

「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「向き合ってくれる大人がいない」という想いが込められているのではないのでしょうか。必要なのは、特別な支援ではなく、当たり前の日常だと考えています。

私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談できる関係性、彼女たちがいつでも戻ってこられるホームの1つとなればと活動しています。



地方や児童養護施設などで暮らす少女にも年に数回物資を送っています

応援者の方からの衣類で全身コーディネート



大人が嫌い。大人が嫌い。大人が嫌い。

そう思いながら過ごしてきた私。学校にもロクに行けなくて、「自分」という価値が分からなくて、言葉が上手く表現できなくて、人と会話もマトモにできなかった、16年間。高校1年生の10月、運命を変える出会いがありました。

「誰かと机を囲んでご飯を食べる」というのは、世間一般では普通と認識されているのかもしれませんが、でも、金銭だけでなく人間関係においても貧困状態に苦しんでいる、私を含めた女の子たちにはそれは「普通」ではありません。そんな闇を抱えている状況が今この瞬間にも起こっています。普通や常識という概念は誰が決めたの？と思いながら過ごしている日々です。そんな私を迎え入れて下さって、一緒に机を囲んでみんなで

「いただきます」と言ってからご飯を食べたり、みんなと一緒に人生で初めてのピクニックに行ってきたみんなでご飯が食べられたり…。「誰かと一緒に笑いながら話すこと」すら普通にできなかった私には、Colaboと出会ってから新しい体験ばかりでした。Colaboや支援して下さる皆さんがいて、とても幸せに思っています。高校を卒業したら、私が女の子の力になれば…支援できる立場にも、少しずつなれたらいいな、と思っています。(18歳・高校3年生)



一時シェルター

2015年、
みなさまからの
ご寄付で開設
できました！

虐待や性暴力被害から、安心して過ごせる場所がない少女が、一時的に過ごすことのできる場所として運営しています。今日一夜を過ごすことができる場所がない、帰れるところがないという少女が利用しています。

利用者 仮眠、シャワー、食事、居場所、学習支援など

宿泊者

18.158. 11.56.

体を休め、落ち着いて考えられる場所を

安心して眠れる場所がないとき、困るのは、泊まれるところがないこと。「家にいられないとき、声をかけて来るのは体目的の男の人だけだった。そういう人しか自分に関心を持たないと思っていたし、頼れるのはそういう人だけだった」とある中学生が言いました。

2011年の団体設立から2015年夏までは、行き場を失った少年少女たちを代表仁藤の自宅に泊めていました。複数のスタッフで少女たちを見守れる、少女たちが気軽に立ち寄れる場所を作ろうと、シェルター開設のためのご寄付を募り、開設することができました。「今の状況を変えたい」と思っている人の他、公的な保護に繋がることを嫌がりながらも「今日は安心して過ごせる場所がない」という人や、家出し知らない人の家を転々とする生活を続けながらも「今日は休みたい」という人も使える場所として運営しています。

物件を借り、開設準備をしていた2015年6月、学校関係者から一本の連絡がありました。シェルター開設の噂を聞いた中学生が、「Colaboに住む」と言っているとのことでした。彼女は虐待を受け、家を飛び出して一週間ホームレス生活を送っていました。シェルターは一時的な避難場所、暮らせる場所ではないこと、まだ準備中であることを伝え、彼女に会いに行きました。数日間Colaboで保護し、学校や児童相談所とやり取りをしながら公的な保護に繋ぐことができました。その間、彼女はシェルターの開設準備や床張りを手伝ってくれました。今でもサポートグループの活動に参加するなど、日常的なかかわりを続けています。

これまでシェルターを利用した少女の中には、里親のもとで生活をはじめたり、自立援助ホームに入所したり、一人暮らしを始めた人もいます。しかし、未だ安定した生活を手に入れられずにいる人も少なくなく、2016年度から、自立を目指す10代後半～20代前半の女子のためのシェアハウスを始めることにしました。特に、18歳を超え、児童福祉の対象ではなくなるものの、未成年で自家の賃貸契約ができない人や、一般的な借家の初期費用の用意が困難な状況にある人、精神的な不安や障害などから一人暮らしが難しい人、これまで定まった家での「暮らし」を経験したことがないことから生活スキルに不安がある人、アルバイトをしながら高校卒業や進学を目指す人、児童福祉の対象年齢でありながら、公的機関の支援へ強い拒否感を持っていたり、これまでの経験から福祉施設での生活が難しい人などに利用してもらえたいと考えています。



Colaboに出逢った頃の私は、 寝泊まりできるところを求めて 転々としていました。

「支援者」が大嫌いで、大人が信じられなくて、夢乃さんに初めて会う時も強気で緊張して、正直「どうせまた嫌な大人が来る。それで絶望したら今度こそ死んでやろう」と思いながら約束した場所へ行きました。でも、夢乃さんはこれまで出会ってきた大人とは違う関わり方で、真剣に私と向き合ってくれました。一緒に頑張っていこうという気持ちが言葉から伝わってきて、信じてみようと思えてきました。

当時、ホームレス状態だったので、Colaboのシェルターに宿泊することになりました。シェルターはまだ開設準備中だったので、物資で溢れ返っていましたが、少しずつ片付けをしながらどんどん快適になっていきました。食べ物を始めた、たくさんの支援に支えられました。

役所で生活保護の申請をすると「現地保護はできない」と断られそうになりましたが、弁護士さんがついてくれて、Colaboが家探しも一緒にしてくれ、新しい生活を始めることができました。そして、この春高校を卒業することもできました。今はまだ不安定な日もありますが、誰かと一緒にご飯を食べたり、他の女の子たちと過ごしたりする中で、家族とは血縁だけじゃない、困った時に手を差し伸べてくれる人がいるんだと感じられ、その事実を支えられながら今日も生きようと思えています。(20歳)

サポートグループ「Tsubomi」

Tsubomiは、Colaboとつながった少女たちによるグループです。

それぞれが困難な状況に向き合いながら、ともに活動し、支え合いの関係も生まれています。

参加者

活動日数

21.65.

回

回

ご寄付いただいた衣類を女の子たちが仕付けています



夏祭り。初めて浴衣を着たメンバーも



つながり、主体となって活動する

10代の少女たちが共に過ごす場をつくり、同じように悩んできた人たちと出会うことで自分の状況を整理したり、向き合ったりするきっかけとなっています。虐待や性暴力の被害など、他の関係性の中では話にくいことも安心して話せる場所。「性被害にあったのは、断れなかった自分のせい」と話す少女に、他の少女たちが「あなたは悪くない」と声をかけていることや、スタッフに言いにくいことを打ち明けような関係性も生まれています。

合宿や夏祭りなどの他、日常なお祝いを共にしたり、シェルターの開設準備をしたり、Colaboに届く寄付品の仕分け、バザーの出店などを共に行ってきました。国連や米国の人身取引や児童買春・児童ポルノの調査に協力し、証言するなど実体験を伝える活動もしています。

- ものづくり：アクセサリー制作
- 季節のイベント：誕生日会、入学祝い、お花見、クリスマス会、年越し、成人式、卒業祝いなど
- 出店：バザー、夏祭り
- 伝える活動：講演会などでの発言、国連や米国国務省への調査協力、児童買春の実態を伝える企画展「私たちは買われた展」の企画・準備
- 研修・教室：料理教室、ネイル教室、アロマ研修、戦争や暴力などについての学習会
- 合宿：春合宿、夏合宿、タイ海外研修

クリスマス会



料理教室



中学生の卒業祝い



Tsubomiのアクセサリー講演会場限定で、寄付者の方にプレゼント中!

このアクセサリーは、虐待や性暴力を受けるなどした全国の少女たちが作製しています。収益の一部は制作者の生活費や、Colaboの活動資金となり、より多くの女の子をサポートするために活かされます。



蕾-TSUBOMI-それは、まだ咲いていない花。

女の子がアクセサリーを作る理由はさまざまです。生活費の足しにするために。何かに没頭できる時間として。孤独に押しつぶされそうなき、Colaboや応援者のみなさんとのつながりを感じられる時間として。

アクセサリーを身につけてくれる誰かの日常の彩りになれること、あなたのちょっとした喜びにたずさわることが嬉しくて、少し照れくさい。

ある少女は言いました。「私はまだ種だ。芽が出るかなってとこで、犬がふんずけた感じ」

これまでいろいろなことがあったかもしれないけれど、出会いや経験の蓄積が力となり、花開くための一歩に。

蕾-TSUBOMI-
それは、まだ咲いていない花。



タイ海外研修

当事者によるエンパワメントやリーダーシップを学ぶ研修として、7日間タイで合宿を行いました。Colaboとつながる3名の女子高生が参加し、LGBT当事者支援団体や、元ストリートチルドレンの当事者による子ども支援団体等を訪問。シェルターや自立支援施設では、同年代の青年たちと交流し、互いの経験や気持ちを語り合う場面もありました。視察と交流を通して、人身取引、児童労働、児童買春、性的マイノリティーなどの問題について学び、普段の生活から離れて、自分の育った環境や体験について振り返る機会となりました。

参加した
女の子たちの
感想

一番印象に残ったことは、ご飯。バンコクのときは、本当にへロへロだった。辛いし、酸っぱいし、甘いし、「もう、ちょっとでいい」みたいなの。カップラーメン食べたいかと思ってた。絶対痩せると思ったけど、チェンマイに来たら超食べれた。ご飯を食べると力が出て、動けるんだなって思った。あと、いろいろ難しい話を聞いた。すごかった。子どもの家（元ストリートチルドレンの青年のための自立支援ハウス）では、なんとなく「境遇でてるのかな」と思うところがあった。似てる部分があった。似てない部分も多いけど。国とか違っても、似てるものなのかなと思った。(19歳・都内高校生)



想像以上に得たものが多くとても勉強になった一週間だった。まず沢山の人とふれ合えて沢山の話が聞けた。LGBTの団体にほうもんさせてもらって、性ひがいろいろの様々な話を聞いてすごい心が痛くなった。同じ人間なのになぜそういう差別をするんだろうとも思った。ストリートチルドレンだった子達の話も聞いて、自分と重なる部分があった。そしてなにより小さい子ども達が本当にかわいくてかわいくてしょうがなかった!やっぱうちが子どもが大好きだし、保育士の夢もあきらめたくないなって。それと同時に辛い過去がみんなあんなにうちらと同じ年くらいの子もがんばっているのを見て、うちらもがんばらなきゃなって思った!そしてこのたびを通して感じ、学んだことを周りの人に伝えていきたい!皆に会えて本当に良かった!皆に感謝がとまらない!でっかい夢も出来たし、いつ叶えられるかわからないけど、それまでがんばる!とってもいいけんをさせて頂いて本当にありがとうございました!
(17歳・神奈川県内高校生)

うちが一番印象に残ったのは、タイにも、日本でうちが暮らしているように、自分の家で暮らすことができなくて、施設で暮らしている子ども達がいるということを知ったこと。海外にもそういうところがあるって知らなかったから、その子達と実際に会ってみて、洗濯とか掃除当番とかいろいろあるって聞いて、そういうのうち全然やったことなくて。職員のいう事も聞かないし、自分だいたい甘えてんなって思った。この子達が、まじめにそういうのが出来て偉いなって尊敬して。しかも自分よりも辛い経験をしてるのに、よく笑顔で先生たちのいう事もちゃんと聞いて、素直に過ごしていることが、うちには全然できないから考えられなくて、すごいなって率直に尊敬した。それが一番印象深かったかな。同じようなところで暮らしている子達の心の助けとか、ちょっとでもしたいなと思ったのが一番変わったのかな。だからうちは!日本で頑張りたいと思った!前から少し思ってたけど、自分の住んだところだけでも、自分の住んだ家の子も達にだけでも、何かできる事をしたいなと思った。そういう気持ちが強くなった。海外にもそういう子どもたちがいるんだってことも、家の子も達に教えたいし、今回写真とかで見せられるから、帰ったらそういう中学生たちに見せたいし、伝えたいなと思った。

(17歳・愛知県内高校生)



啓発事業

「関係性の貧困」「性的搾取の対象になりやすい中高生」「居場所やつながりを持たない高校生」「SNSの危険」「性教育」など、青少年を取り巻くさまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。また、夜の街歩きツアーでも、子どもを取り巻く危険を伝えています。

講演回数

76回

参加者

8849名

- 講演・ワークショップ
- 夜の街歩きスタディーツアー

講演依頼を受け付けております。
HPからお問合せください!

「最近の若者はわからない・・・」「子どもたちを守るにはどう関わればいいのか？」
一緒に考えてみませんか？

中高生向け



テーマは、家族関係、友人関係、居場所、進路選択、JKビジネスや性について、SNSの使い方や危険、国際協力や被災地での活動、貧困問題について等幅広く、

中高生の目線に合わせてお話ししています。講演会をきっかけに、相談支援につながったり、教員など身近な大人にSOSを上げる生徒も少なくありません。

参加者の感想

● 定時制高校・高1女子 「友達がJKリフレや夜の仕事をしてて、中学んとき自分もやろうとした。でも裏の世界で働いてる先パイで幸せそうな人もいないし、だからそのために高校も卒業して色んな事を学びたいと思った」

● 全日制高校・高2女子 「人って変わるんだと思った。どんなにやんちゃでも、ひきこもり気味でも、人は絶対変わる。今この場所この時間にいられることがどれだけ幸せか考えさせられました」

● 特別支援学校・高3男子 「しょうじき、ぼくの人生も楽しいといえず、学校に行くのも仕事に行くのもいやです。ぼくには助けてくれる人はいない。1人なんだって思って、最近は食欲もない、人を信じられない、それでも頑張ってる生きています」

大人向け



今、日本の中高生はどのような状況におかれているのか。活動の中から見えてきた実態をお話します。テーマは、女性の人権、虐待、貧困、高校中退、不登校、子どもの居場所、性暴力、インターネットの危険等、さまざまです。困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、その背景には何があるのか、私たちには何ができるのか、一緒に考えます。

参加者の感想

● 70代男性・電話相談員 「知らない世界が生々しく迫ってきた。知らぬ単語が続出し、戸惑い、不勉強かなと思った。10代の使用ツールなど、詳細を話していただけてよかった。我々の時代とは違う生き難い実態を知り、予想以上の現実に驚いている」

● 40代女性・保護者 「女子高生の現状を聞きショックでしたが、その現状を知らなかったこともショックでした。子どもが性的対象として消費されている現状。私にも小学生の娘がいるので、母として、女性として、人として、考えさせられました。自分にできることは何か、じっくり考えたい」

2015年度 講演実績 (敬称略・順不同)

■ 行政、公的機関

男女共同参画センター(札幌市、埼玉県、調布市、清瀬市、越谷市) / 愛知県警察本部 / 千葉県青少年補導大会 / 渋谷区教育センター / 横浜市青少年相談センター / 神奈川県青少年センター / 中区福祉保健センター / 中央区立女性センター / 福岡市人権啓発センター / 人権問題都民講座 / 伊勢原市公民館 / 滋賀県社会福祉協議会

■ 民間 (NPO、地域支援団体等)

社会福祉法人いのちの電話 / チャイルドライン(品川、さいたま、ひろしま) / 日弁連子どもの権利委員会 / 日弁連人権擁護大会 / 性教育研究会 / しまね性暴力被害者

支援センターさひめ / 矯風会 / 日本YMCA / 名古屋YWCA / ふえみん婦人民主クラブ / 曹洞宗 / 孝道山本仏殿 / 国際ソロプチミスト町田さつき / 国際婦人年連絡会 / SaftyFirst静岡 / 横浜プレーパークリーダー会 / TAMA市民大学 / 非行と向き合う親たちの会・沖縄 / 全国こども福祉センター / 新宿区更生保護女性会 / 西知多保護区保護司会 / 埼玉県青少年立ち直り体験交流会 / 佐賀県放課後児童クラブ連絡会 / 子どもの未来サポートオフィス

■ 教育関係

目黒区教育委員会 / 都立小川高等学校PTA / 東京城北地区中高補導協議会 / 湘南教組 / 滋賀県教組合豊能地区教

員組 / 大阪高教組 / 中区学校保健会 / 教育科学研究会 / 高生研関東ブロックセミナー / 長野県諏訪高校

■ 学校 (生徒向け)

都立青峰学園 / 足立区立谷中中学校 / 神奈川県立川崎高等学校 / 埼玉県立岩槻北陵高校 / 日本社会事業大学 / 法政大学 / 明治学院大学 / 十文字女子大学 / 和光大学 / 熊本大学 / 香港大学

■ その他

日本外国特派員協会 / 民主党共生本部

夜の街歩き スタディー ツアー

夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。目で見て肌で感じただけ、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。普段の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。個人での参加のほか、団体の研修としてもお受けしています。5名以上での申し込みで、お好きな日程で調整可能です。

参加者募集中!
詳細はHPへ

開催数

35回

参加人数

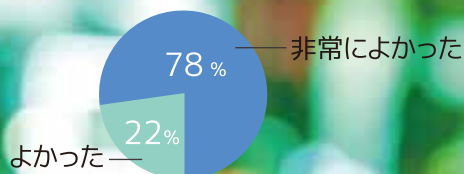
296人

■参加者

教員、保護者、児童福祉、
医療、警察、行政関係者、
弁護士、議員など



ツアー参加者の満足度 (アンケート回答者98名)



- ・少女を取り巻く危険や実態を知ることができた —— 98%
- ・これまで気づくことのなかった現状を知れた —— 98%
- ・青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった —— 75%

参加者の声

大人の都合で少女が商品として売られている。その場面を実際に見聞きし、憤りが強くなりました。

まさに大人の都合で、少女やいたいけな幼い子どもが性の商品として並べられ売られている場面を実際に見聞きし、憤りが強くなりました。解説がなければ、ただの風景にしか見えなかったかもしれません。その後、地元に戻ってからも、スカウトされているらしい場面に気づくようになりました。参加された他の皆さんと意見交換ができたことも良かったです。

50代女性 北九州議会議員 山本さん

お金欲しさにやっていると思い込んでいた。背景にある行き場のない状況を知りました。

JICAのASEANの人身取引対策関係者のセミナーの一環として参加させていただきました。ツアー参加前の自分を含め、多くの大人は危険な仕事をする女の子は携帯や洋服を買うお金欲しさにやっていると思い込んでいるので、その背景にある家庭や学校で行き場のない状況や、そこにつけ込む手口について知れてよかった。自分自身、男として買う側の男の問題にもっと取り組まないといけないと思いました。

40代男性 JICA職員 小田さん

当時の自分を少し受け入れられたような気がします。

正直、今までは危険に足を踏み入れる女の子の方に責任があるのではないかと感じていました。私自身、高校の頃家庭にも学校にも居場所をなくし、ネットで知り合った人と自発的に遊んだりした経験があったからです。でも、スタッフの方が「中高生に責任はない。悪いのは大人だ」と断言していらっしやるのを聞いて、当時の自分を少し受け入れられたような気がします。

20代女性 大学生 瀬川さん
(この後、街歩きスタッフとして2015年度の活動を支援してくれました)

教育カリキュラムでは学べない。世の中を見る眼がガラリと変わりました。

私は大学で医学系の教育に携わっており、学生さんにこのような社会問題を知ってほしいと思いました。なぜなら、今の教育カリキュラムには、こうした社会的な問題を学ぶ機会がほとんどないからです。このツアーに一度参加すると、世の中を見る眼がガラリと変わってしまうと思います。教育学ではこのような学習を「変容的学習」と呼びますが、まさに変容が起きる(起きた)と感じました。同時に今の自分にできることは何だろうと強く考えさせられました。

40代男性 医師・大学教授 孫さん

メディア掲載・受賞歴

テレビ出演

- 2015年
- 3月 NHK ニュースWEB「サイバー補導600人」
 - 4月 デモクラTV
 - 7月 VICE NEWS「Schoolgirls for Sale in Japan」
 - 12月 NHK NHKシリーズ戦後70年 日本の福祉「ほくら・私たちのこれから」
- 2016年
- 3月 テレビ東京 NEWSアンサー

ラジオ出演

- 2015年
- 3月 TBSラジオ 全国こども電話相談室リアル「危険!JKビジネスの実態」

新聞掲載

- 2015年
- 3月 いわぶね新聞「女子高生ビジネス 被害地方でも必ず」
 - 産経新聞・5日連続インタビュー「難民高校生を救いたい」「メイドカフェで危険なアルバイト」「大学へ進学」「『うちの子は大丈夫』は通用しない」「温かいご飯とシャワーがあれば」
 - 5月 沖縄タイムズ「居場所失い夜社会へ『難民高校生』著者仁藤夢乃さん講演」
 - 7月 朝日新聞「夜の街子のSOS聞きに」
 - 10月 朝日新聞「JKバイト、性被害の入口 女子高生、客とご飯・ホテル」
 - 11月 中日新聞・東京新聞「考える広場」
 - 朝日新聞「青少年条例が唯一ない長野県 制定急げぬ事情とは」
 - 12月 朝日新聞「GPSで子ども追跡、安心だけど…思春期『監視』と反発」

雑誌・書籍

- 2015年
- 3月 日経ビジネスオンライン「福祉行政は風俗産業に敗北しているー『元・難民女子高生』が語る支援の不備」
 - 4月 現代思想 2015年4月号vol.143「特集?教育クライシス/難民化する子どもたち 声をかけるのは誰か」
 - 新潮 45 2015年4月号「インタビュー」
 - 5月 教育2015年5月号「特集 女子の生きづらさ/インタビュー 女の子たちと、一緒に生きていけるようになりたい」
 - 8月 日経BP中川雅之著「ニッポンの貧困」インタビュー
 - AERA 2015年8月31日号「No.37インタビュー 小島慶子の重複論11」
 - 9月 ViVi 2015年9月号「インタビュー/ViVi世代の諸事情」
 - 10月 授業づくりネットワークNo.19「格差と授業/少女たちのいま」
 - 青少年問題研究会 青少年問題第660号「現場から見た青少年問題」
 - 12月 日経ビジネス2015.12.28・2016.01.04合併号No.1822「次代を創る100人」
 - 全国障害者問題研究会 みんなのねがい2015年12月号「人として/顔が浮かぶ存在に」
- 2016年
- 1月 教職研修2016年1月号『特集:これからの子どもに必要な『学力』とは/〈提言〉私が考える、これからの『学力』』
 - 3月 こころの科学183号「特別企画?『死にたい』に現場で向き合う/困難を抱える女子中高生への支援の現場から」

機関誌

- 2015年
- 3月 部落解放・人権研究所 ヒューマンライツ「若者福祉をつくる/難民高校生一居場所を失う青少年」
 - 4月 Do For Others第15号(明治学院大学校友会)
 - 6月 パルシステム わいわい「ソーシャルトーク」
 - 6月 パルシステム のんびる「繁華街に救いを求める『難民高校生』」
 - 9月 教育相談室だより「特集?子どもの性の商品化ー需要と供給はどこにあるのか」
 - 地域社会ライフプラン協会 ALPS10月号「少女を支える活動」
 - 10月 矯風会 婦人新報1354号「女性・子どもの貧困と性搾取/すべての少女に衣食住と関係性を」
- 2016年
- 3月 日弁連新聞「第26回付添人経験交流集会」

海外メディア

Mercado Latino、VICE NEWS

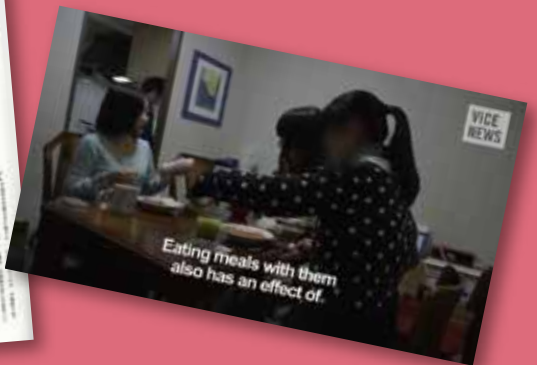
受賞歴

2015年度エイボン女性年度賞を受賞しました! 市川房江さん、松井やよりさん、落合恵子さんらが受賞されているエイボン女性年度賞をいただき、活動に50万円のご寄付をいただきました! 女の子たちと授賞式に参加し、化粧品のご寄付などで継続的に支援していただいています。2016年度から、商品開発プロジェクトも始まりました。



エイボン女性年度賞を受賞しました!

日経ビジネス「次代を創る100人」に選出されました!



詳しくは下記サイトへダウンロードや記事を読覧できるものがあります

<http://www.colabo-official.net>

2015年度 会計報告

第3期会計報告（2015年2月～2015年8月） 単位：円

収益	
受取会費	2,086,500
受取寄付金	5,726,044
難民高校生を贈ろうプロジェクト	56,000
一時シェルター開設・運営	1,116,679
受取助成金	0
事業収益	
情報提供事業	605,600
支援者養成事業	912,000
その他収益	
雑収益	157,342
受取利息	516
経常収益計	10,660,681

支出	
事業費	
人件費	525,000
その他経費	797,553
事業費合計	1,322,553
管理費	
人件費	525,000
その他経費	1,682,304
管理費合計	2,207,304
経常費用計	3,529,857

繰越金	
当期正味財産増加額	7,130,824
前期正味財産繰越額	1,695,298
次期繰越正味財産	8,826,122

第4期会計報告（2015年9月～2016年3月） 単位：円

収益	
受取会費	544,500
受取寄付金	2,860,120
難民高校生を贈ろうプロジェクト	92,000
一時シェルター開設・運営	1,202,840
「私たちは買われた」展	732,902
受取助成金	
国際交流基金アジアセンター	794,720
パルシステム市民活動助成基金	500,000
丸紅基金社会福祉助成金	2,000,000
公益財団法人愛恵福祉支援財団資金助成	186,859
事業収益	
居場所づくり事業	373,220
情報提供事業	2,990,240
支援者養成事業	1,103,000
その他収益	
雑収益	87,003
受取利息	642
経常収益計	13,468,046

支出	
事業費	
人件費	656,292
その他経費	3,414,037
事業費合計	4,070,329
管理費	
人件費	1,738,875
その他経費	1,301,949
管理費合計	3,040,824
経常費用計	7,111,153

繰越金	
当期正味財産増加額	6,356,893
前期正味財産繰越額	8,826,122
次期繰越正味財産	15,183,015

団体概要

名称 一般社団法人Colabo
 設立 2011年5月（2013年3月に法人格取得）
 役員 代表理事：仁藤夢乃
 副代表理事：稲葉隆久
 理事：奥田知志（牧師、NPO法人抱樸 理事長）
 川村百合（弁護士）
 齋藤百合子（明治学院大学准教授）
 監事：打越さく良（弁護士）

※ 昨年事業年度を変更したため、2期分の報告となります。
 今期（第5期）より、事業年度は期首4月1日、期末3月31日となります。

会員・寄付・物品応援

想いのつまったご支援、ありがとうございました！

212
名

サポーター会員

122
名

資金寄付

168
件

プロジェクトへの寄付
企画展「私たちは買われた展」

177
件

プロジェクトへの寄付
シェルター運営

33
件

84冊分
プロジェクトへの寄付
難民高校生を贈ろう

423
件

物品寄付

様々な形で活動を支援していただき、みなさまの想いと行動に心より感謝しています。

寒空の下、薄着で寒さをしのいでいた少女に出会い衣類の募集を開始、生理用品を買えず祖母のオムツで代用している少女との出会いをきっかけに生理用品を募集開始、新生活を始める少女のための家電や布団の募集、中学生がシェルターを利用し、中学生用下着や文房具などを募集しました。必要としているものをすぐにご支援くださりありがとうございました。

ご支援と一緒にお送りいただいたメッセージは、少女にも伝えさせていただいています。みなさまの想いをうけて、「お礼の手紙を書きたい!」と、この報告書にも少女たちがメッセージを寄せてくれました。みなさんは、少女の可能性を信じ支える仲間です。これからもよろしく願いいたします。



2014年度活動報告会にて、応援者の方々と

助成金で支えていただきました！

- パルシステム/市民活動助成基金：一時シェルターの運営 50万円…2014年度から継続して助成いただいています。また、イベント出店や、お米の寄付など、様々な形で活動を支援して頂いています。
- 丸紅基金/社会福祉助成金：シェルターの改装 200万円
- 国際交流基金アジアセンター/アジア・市民交流助成：居場所と関係性を再構築する若者のリーダーシップ育成支援事業（タイ研修） 約79万円
- 公益財団法人愛恵福祉支援財団：シェルター器具備品費 約19万円

シェルターオーナーとして支えて下さった皆さま

2015年度、35名の方にシェルターオーナーとして47日分運営費を支えていただきました！掲載可の方のみ、お名前を掲載させていただきます。

- 1日オーナー：宮本綾子様、瀬川恵子様、柴田朋子様、勝原巨様、上田貴子様、小西顕紀様、M.O様、小野順子様、岡本美枝様、藤井八月様、長岡麻里様、塚本真理様、S.T様、坂本淳子様、清野初美様、馬場律子様、渡辺葉様、旭慎也様、櫻井卓様、小笠原晋也様、藤山咲衣様、木下紫乃様、K.M様、N.T様、伊藤加奈子様、いちょう様、湯川浩様
- 2日オーナー：竹山洋児様
- 3日オーナー：S.O様、福本麻紀様、Y.K様、三富正博様
- 4日オーナー：西秀信様

以下の物品をご寄付いただきました

- 書き損じハガキ、未使用切手：郵送費として使用します
- 図書カード、商品券：少女へ贈る本や、物品購入に使用します
- テレフォンカード：緊急連絡用として少女に渡します
- 電子機器（iPhone、ノートパソコン等）：相談事業に使用します
- 制服、衣類、日用品（生理用品、リップクリーム、制汗剤、入浴剤、メイク落としなど）：少女に贈ります
- 食品：困窮した少女に贈るほか、食事提供支援で使用。パスタソースや鍋の素、乾麺、カレーのルー等は、自炊するきっかけにもなっています。
- 農産物：全国からお米や果物、野菜等のご支援をいただきました。果物や地方の名産品は食べる機会がない少女も多く、大変喜ばれています。生鮮食品の継続的なご支援も嬉しいです。
- Amazonほしいものリストからも、たくさんのご支援をいただきました！：飲食物品、調理器具、掃除用品、家具、家電、寝具、書籍、文具など



風邪を引いた時、食欲のない時に役立ちました！



着なくなった制服を後輩へ



女の子たちが使う日用品

感謝は
少女たちと日々を重ねることで、
お返しさせていただきます。

ご支援のお願い

Colaboの支援方法について

私たちの活動は、みなさまのご支援に支えられています。
継続して活動を支えるサポーター会員や、活動資金や物品寄付など様々な形でご支援していただけます。会員の方には、研修割引や報告会へのご招待、活動報告書をお送りさせていただきます。

会 員	年会費 / 1口 : 6,000円
寄 付	活動資金 物品 (随時必要な物をHPに掲載しています)
難民高校生を贈ろうプロジェクト	1口 : 2,000円 1人の中高生に本「難民高校生」を贈ることが出来ます。詳しくは裏表紙へ
シェルターオーナー	1口 : 30,000円 1口でシェルターの1日オーナーになることができます。(1日運営する費用がまかなえます。) 365日開設を目指し、支援を募っています。応援、ください!

会員申し込みやご寄付は、お礼の連絡や報告をさせていただくため、HPよりご連絡の上、下記口座へお振込みください。クレジットカードからのご寄付はHPをご確認ください。



ゆうちょ銀行 (ゆうちょ銀行から)
[記号] 18180-2
[番号] 3692211
[名義] コラボ

ゆうちょ銀行 (他金融機関から)
[店名] ハー八 (ハチイチハチ)
[店番] 818
[口座] 普通 0369221
[名義] コラボ

三菱東京 UFJ 銀行
渋谷中央支店
[普通] 0363448
[名義] イッパンシャダンハウジンコラボ

一時シェルター運営応援サイト

<http://japangiving.jp/p/2148>

企画展『私たちは買われた展』応援サイト

<http://japangiving.jp/p/3475>

ご支援よろしくお願いたします。

日々の活動や少女たちとの
関わりを綴っています



●イミダス連載コラム

『バカなフリして生きるのやめた!』

仁藤夢乃のここがおかしい / 対談! 10代のあなたへ / 大人に伝えたいこと ~ 少女からのメッセージなどのコーナーが、Colaboの応援企画として、スマホ・携帯から全文無料公開中! 少女たちがメッセージも寄稿しています。

<http://imidas.jp>

●Facebookページ

<https://www.facebook.com/colabo.official>

●代表ブログ

<http://ameblo.jp/colabo-yumeno>

村上龍氏
推薦!



難民高校生 —絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル

仁藤夢乃

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす”難民高校生”だった。
一家庭・学校のつながりを失い、渋谷を彷徨っていた中高時代。
やりたいことも夢も失くし、学校を中退。
妊娠、中絶、DV、リストカット、自殺未遂…。私の周りには、そんな子がたくさんいた。
人生に絶望した私の前に現れたのは、一人の講師だった—

英治出版
¥1,500円(税別)



台湾でも翻訳版が
出版されています!



女子高生の裏社会 —「関係性の貧困」に生きる少女たち

仁藤夢乃

「うちの子には関係ない」「うちの地域は安全だ」
そう思っている大人にこそ、読んでほしい。
「女子高生」を狙うJK産業で働く少女たちの身に何が起きているのか。
少女たちの本音から、解決策を探る。

光文社新書
¥760円(税別)

会員になって、活動を支援してください!

年6000円(月500円)から継続的に活動を応援していただくサポーターを募集しています。
私たちの理念・活動にご共感いただいた方、ぜひご支援よろしくお願いたします。

- 会員特典 ①女の子の想いや日々の活動を伝えるColabo通信をお届け(不定期)
②活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引



難民高校生を贈ろうプロジェクト

居場所がない、生きる希望がない、頼れる人や相談できる人がいない、性暴力を受けている、いじめ、虐待、ネグレクト、
親や教員とすれ違いの日々…そんな高校生たちに、本『難民高校生』を贈りませんか?

- 1口: 2,000円で、1人の高校生に、『難民高校生』を届けられます!
本には、仁藤からのメッセージを入れ、高校生に贈らせていただきます。

シェルターオーナーになりませんか?

虐待などを背景に少女が家に帰ることができない、家にいられないとき、駆け込める場所として開設しています。シェルターは、みなさまからのご寄付で運営しています。1口で1日の運営費をまかなえます。オーナーとして、ご希望の方は報告書にお名前を掲載させていただきます。ご支援よろしくお願いたします。

- 1口: 30,000円…1口で、シェルターの1日オーナーになることができます。365日開設を目指し、支援を募っています。



講演のご依頼、お問い合わせはこちらから

<http://www.colabo-official.net>

メール info@colabo-official.net



スマホ・携帯はこちらから